調査の実施方針

1)調査の概要

調査フロー

【10~11月】 調査計画の策定 【12月】 集落アンケート 先進事例調査 調査 (自治体を含む) 【1~2月】 ワークショップ 【2~3月】 協働体制の検討 及び 住民発意の「集落元気づくり」 への提案

検討委員会の主な議題

第1回 検討委員会 H20.12.11

- ■調査の実施方針
- ■集落アンケート調査方針と項目の検討
- ■先進事例調査項目の検討
- ■ワークショップ対象地の検討

第2回 検討委員会 (H21.1予定)

- ■集落アンケート調査の結果報告
- ■先進事例調査の結果報告
- ■ワークショップ対象地の選定及び運営方針

ワークショップ(1~2回) (H21.1~2予定)

- ■文献と現地調査による現状と住民意向把握
- ■住民発意の「集落元気づくり」への支援 (有用な地域資源の発掘と支援ツール・活用策の検討)

調査の目的・方針

【目的】

「自立した元気な九州圏土づくり」を目指し、小 規模・高齢化集落の活力維持・向上に向けた取 り組みを通して支援の方策について検討する。

【方針】

検討にあたっては、人のくらし・生活をいかに維持していくかに焦点を当てるとともに、統計データでは現れない、以下の点等に着目し、即地的な調査・検討を進める。

- ・ワークショップにより、住民意思・意向を把握。
- ・近隣地域や親族、他出者との相互扶助機能。
- ・行政やNPO団体との協働体制。

また、住民発意の「集落元気づくり」の検討過程や協働体制の検討結果等を、自治体や住民が取り組む際に活用できるように知恵袋集として取りまとめる。

第3回 検討委員会 (H21.3予定)

- ■ワークショップでの検討結果報告
- ■協働体制の検討
- ■住民発意の「集落元気づくり」への提案
- ■知恵袋集の作成

成果の活用

- ■広域地方計画への活用
- ■各自治体の取り組みへの活用

委員会構成

(学識者5名 行政1名 計6名)

- ■委員長
- 小川 全夫 山口県立大学大学院 教授
- ■アドバイザー
 - 矢田 俊文 北九州市立大学 学長
- ■委員

北園 芳人 熊本大学 教授 吉武 哲信 宮崎大学 准教授

山田 誠 鹿児島大学 教授

森北 佳昭 九州地方整備局 企画部長

2)調査の流れ

調査フロー



調査の実施方針(目的・ねらい)

■集落アンケート調査

集落住民を対象に、統計では現れない集落の実態把握や住民の居住に当たっての不安要因を明らかにする。また、集落の活力維持・向上に向けた「集落元気づくり」への取り組み意欲を確認する。さらに、自治体を対象に、集落の機能維持に関する客観的な情報、外部支援の可能性とその意向を把握する。

■先進事例調査

暮らしの改善事例、地域資源の有効活用事例、近隣地域や親族、他出者との連携や相互扶助による取り組みを行っている事例について、その取り組みの体制や取り組み実現までの過程を調査し、「集落元気づくり」の参考とする。

■ワークショップ

集落住民の意見を直接聞きながら、集落の抱える問題等の現状を把握する。 集落の資源やその活用意向を把握しつつ、「集落元気づくり」の検討を行う。 また、実際に取り組んでいくための体制や取り組み実現への協働・支援策を検討 する。

■協働体制の検討及び住民発意の「集落元気づくり」への提案

人の暮らし・生活の維持に取り組むために、他出者との連携や相互扶助による 協働体制構築のための手法やプロセスについて検討する。

また、ワークショップで検討した「集落元気づくり」の支援策について検討を深める。 さらにこれらの取り組みを進めていく上での課題等を整理し、今後の「集落元気づ くり」へ向けた提案を行うとともに、自治体や住民への周知策についても検討する。